

私は今回の「夏期華語及び英語台湾文化研修プログラム」を通して、多くの学びや発見を得ることができました。その中でも特に印象に残ったものが3つあります。1つ目は、台湾と日本の食文化の違いについてです。日本では自宅での食事が基本であり、外食は特別な時にするものというイメージがあります。しかし、台湾では外食をする頻度がとても高く、3食すべてを行うことも一般的です。そのため早朝の朝食専門店から深夜の夜市まで、出勤前後の人々や家族連れで大変賑わっています。私たちは、桃園市にある中歴夜市を観光しましたが、道路に屋台が立ち並び、特に臭豆腐やフルーツジュース、大腸包小腸のお店が多くありました。また、そこで輪投げや射的を楽しむ子どもたちの姿も見ることができました。2つ目は、原住民の文化と歴史についてです。原住民とは、中国大陸からの移民が盛んになる17世紀以前から居住していた台湾の先住民の事を言います。現在、台湾政府が法定の原住民族として認定しているのは16民族で、総人口の約2~3%を占めていることを知りました。それぞれに言語や宗教的なお祭りを有しており、また中には顔に刺青を入れて階級を区別している民族やガラス細工に秀でた民族がいたり、とても興味深いお話を伺うことができました。3つ目は、台湾の人々の人柄についてです。どの観光地のお店を訪れても英語や中国語で店員さんが気軽に挨拶をしてくれ、楽しく買い物をすることができました。また、駅やショッピングモールで道に迷っている私たちを見て、現地の方が目的地まで連れて行ってくれたこともありました。台湾の人々の温かさと親しみやすさを実感しました。

最後に、授業ではカナダ人の先生のもと英語を学びました。いつもの緊張感のある講義とは違い、ラフな雰囲気楽しく受講することができました。私は、今まで人前で発言することに恥ずかしさを感じていましたが、フレンドリーでオープンな先生と関わる中で、人前で躊躇することなく話すことができるようになりました。2週間、英語クラスのメンバーと様々な会話をし、充実した毎日を過ごすことができました。この研修を通して、台湾文化に触れたり、現地の方々と関わったりしたことで多くの刺激を受け、

今まで以上に目標に向かって頑張りたいと強く思うようになりました。この経験を活かし、これからの大学生活をより一層充実したものにしていきたいと思います。



中歴夜市



修了式